

2010

子供の成長と道具

All-time Usable Furniture from Childhood to Adulthood

AD11 川崎 莉奈
指導教員 小西 均

1. 研究目的

小学生になると、子どもの能力に見合った家具や道具が与えられる。しかし、与えられた家具は長期にわたって使用しているケースが少ない。

子どもの成長に合わせて対応し、大人になっても使い続けることの出来る家具や道具を考える。

2. 調査と分析

子どもの成長過程、幼少期に与えられる道具や家具を調査した。

子どもは12歳までの間に大きく成長しする。主に6歳～12歳には身長と体重が大きく変わり、運動能力も上がる。また様々なものに興味を持ち始めるため行動範囲が増える。また、必要な道具や家具も年齢とともに増えていき、形を変えていく。

・子ども用の道具や家具

子ども用にデザインされている物も存在しているが、使用する時の子どもの身長などに合わせているため長期にわたって使用するのは難しい。

多くの子ども用製品は子どもが成長すると捨てられてしまう。

子ども用になると調節できるものも、ある程度の限界がある。

道具が増えていくためおもちゃ箱など、収納する家具が必要になってくる。



3. コンセプトの立案

「子どもから大人まで使える多機能家具」

子どもの成長に合わせ、用途を変えていくことで大人まで使える家具を提案する。

4. デザイン展開

最初は学習机を基本として考えていたが、形にバリエーションが生まれず、用途に対応できないと感じた。

子どもは工作をしたり勉強をしたりと行動の内容が異なるため、それらに対応していく必要がある。また大人でも子どもでも、成長に合わせて使い

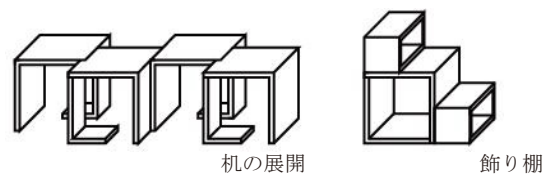
やすく変形していかなければならない。

多用途に対応しやすくするために、組み合わせることで形を変えていく形にした。また組み合わせの範囲を広げるために片面を面に、もう片面は格子状にした。

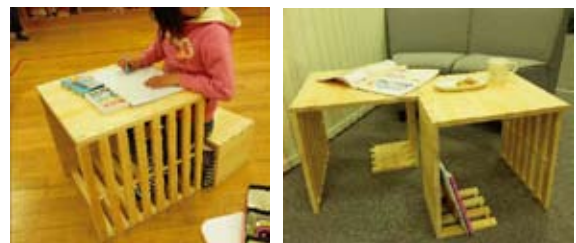
ぬくもりを持たせるためにタモ集成材を使用。そして幅を大きく持たせて格子状にすることで子どもに持ちやすく、大きくても運びやすいよう軽量化し、組み合わせししやすい形に成形した。

4つのパーツで1セットで販売し、パーツが増えていくことでより展開できるようにした。

・組み合わせ例



5. 完成図



6. 結論

子どもたちに見てもらった結果、当初目的としていた机と椅子の機能は十分に充たせた。大きさも丁度よく持ちやすい、組み立てるのが面白い、重くないので一人でできる、色が明るくて好き、つみきみたいなど意識して制作した点では成功したと言える。

成人の人からは、高さも丁度よくカフェのようでおしゃれ、木で出来ているのがいい、状況に応じて組み合わせられるので便利など好評を頂いた。組み合わせを拡大できるよう改善すればもっと可能性が出てきたと思う。

7. 参考文献

「こどもの成長」

<http://www.mominokiclub.com/index.html>